

四季の訪問

(107)

岡田隆晴氏

(時25回)



略歴

- 1973年 時習館高校卒業
- 1974年 東京医科歯科大学入学
- 1980年 東京医科歯科大学卒業
- 同年 東京医科歯科大学第一内科、東京女子医科大学脳神経外科入局
- 1989年 東京都多摩老人医療センター脳神経外科医員
- 2005年 東京都保健医療公社 多摩北部医療センター脳神経外科医長
- 2012年 同部長

9月半ばの晴天の日、荻窪のご自宅を編集4人で訪ねました。開放してくださいだったキッチンで持ち寄りの料理を盛り付け、昼ご飯をいただきながらお話を伺いました。

▼高校入学まで

姉兄のいる4人兄弟の末っ子として生まれました。豊橋の牟呂小を卒業し、中学進学にあたって周りから「行ってみる？」的な働きかけもあり、愛教大附属岡崎中に進みました。入学してみても、同級生は親が医師、社長などの「いいとこの子」が多いなと感じました。

中学、高校と剣道部でした。ご存知のように、剣道では面、小手、胴を打って一本をとりますが、ある時に必勝する奥義(?)を思いつきました。即ち、小手を打って後ろに下がるとい技。ところが、いざ試合に出てみると、小手をとっても審判の勝ちの旗がなかなか上がらない。闘志や意気込みが感じられない、武道としての美しさが足りないということだったのでしよう。自分の性格の一端を物語るエピソードです。

▼時習館時代

通学時間が中学の頃と比べて格段に短くなり、嬉しかったですね。数学と英語が好きだったからでしょうか、印象深い先生は高3の時の担任の数学の近藤先生、「勝者は美人を手に入れる」の言葉を教えてくれた英語の菅沼先生。正門脇の暗い剣道部の部室、ファイアーストーム、文化祭、体育祭の相撲体操、どれも懐かしいです。

高2の時、同級生『阿Q正伝』から彼を阿Qと称す人もいた)の退学処分を巡って、処分が重過ぎると、授業ボイコットをして、全学集会が開かれたことがあります。

私は直接その同級生を知らなかったのですが、集会に参加しました。高校生らしい正義感からの運動だったと思います。学校側からの、集会の妨害やボイコットに対する咎めも特になかったと記憶しています。結局、処分撤回には至りませんでした。今振り返ると自由な学校だったなと思います。

▼医学部進学

特に誰かに言われたわけでもないけれど、次男坊だから、家を出なくてはいけないと感じていました。それなら東京に出てみたい、広い世界を見てみたい、メカが好きだから、工学部もいいかなと。もの作りがしたいと言って父親と言い争いになったこともありました。機械、情報などの専門職に就くための学部も興味がありました。専門職の中でも特に医師は食べるのには困らないだろうと医学部進学を選択しました。

家族の応援もあって、御茶ノ水の駿台予備校に1年間通い、東京医科歯科大学に入りました。予備校の同じクラスには闘病しながら受験勉強をしていた高校の一つ先輩で生徒会長だったT君もいました。東大に入った後に天逝された方で、近寄りやすい雰囲気があったのを覚えています。

▼脳外科医に

実は精神科に興味がありました。当時は精神科で認知症を扱うことは少なかったように思います。結局脳外科医になりましたが、やはり認知症を研究するようになり、何かの縁だったかと思えます。70年代当時、認知症が注目される時代が来るとは誰も思っていないませんでした。精神科の進歩も目覚ましく、そのころ絶対治療不可能と思われた統合失調症(当時は精神分裂病)も今では薬剤で通常の社会生活が送れるようになり

ました。ちょっと恐い話ですが、MCI(軽度認知機能障害)はご存知でしょうか。加齢に伴う記憶障害を越えた記憶障害はあるものの全体的な認知機能は正常に保たれ、日常生活は正常に行える状態で、そのうち10~15%はアルツハイマー病に移行するとも言われています。



自分とは何かということにとっても拘っていたことがありますが、この、脳の模型を見てください。脳の外側はシルヴィウス裂で前後に分かれます。脳は機能局在と言って、部位によ

って役割が違います。外側、前部分の前頭葉は身体運動と思考を司り、後部分の後頭葉は視角を分析し、側頭葉は聴覚を処理し、頭頂葉は触覚による身体感覚と空間を認識して、前から後ろへと情報は伝わります。内側には海馬(タツノオトシゴの形に似ているでしょう)、扁桃核、帯状回など記憶、感情、意思を担う部分があり、情報は内側から外側へと伝わり、さらに脳の前部に集ま

ります。後ろから前へ、内側から外側へと伝わった情報が合致したところに自分の心というものがあるのではないかと考えました。「我思うゆえに我あり」の「我」の座があるのではと。これについては多くの発表がありますが、依然未知です。安易には正体を現さないからこそ大変魅力的だと思えます。

脳の機能を知っていると、人間の行動を理解するのに役立ちます。人間もまた生物、個体の維持と種の維持

